

サーフィン部の活動はビーチクリーンから

宮崎市立青島中学校

自然やお世話になっている地域の人々へ感謝の心を込めて、日頃、練習で利用している青島海岸の清掃活動を行いました。

活動内容としては、海岸に落ちているプラスチックごみやペットボトル、海岸利用者の残したごみなどを拾う美化活動です。サーフィン部生徒及び保護者、部顧問が参加しました。

(参加された方等の声)

- 夏休みは花火のごみや海を利用する人たちが残したごみが多かったので自分たちができることで海をきれいにできてよかったです。(生徒)
- サーフィンの技術を身につけることも大事ですが、海を大切にする心も育てたいので、子供たちとビーチクリーンができてよかった。この活動を継続して取り組んでほしい(保護者)



心を込めた絵葉書を地域の方に

宮崎市立住吉中学校

宮崎市立住吉中学校は昭和28年に青少年赤十字に加盟した、県内では一番初めの加盟校です。「気づき・考え・実行する」を合言葉に様々な取り組みを行ってきました。絵葉書はその取り組みの一つであり、本校の伝統活動となっています。

生徒一人一人が地域の一員であることを自覚し、地域の方々との関わり方について自ら考え、行動できればと、活動しております。

活動の内容としては、全校生徒一人一人が心を込めて手作り絵葉書を作成し、7月の初旬に「暑中見舞い」として学校で作成、作成したものは、社会福祉協議会の方々にお渡しし、住吉地域の方々のご自宅へ一枚いちまい届けて頂きました。

(参加した生徒等の声)

- 暑中見舞いの返信を地域の方から頂き、自分が作成したのを見ていただけたのだなと感じ、とても嬉しかったです。また、返信で頂いたハガキがとても丁寧に手書きで書かれており、感動しました。地域の方とのコミュニケーションがとれて良かったです。
- 今回絵葉書を作成してみて、パソコンで作るよりも手書きで作成する方が、より相手に自分の想いが伝わりやすいのだと分かりました。地域の方の笑顔を間近に感じ、私自身とても元気がもらえました。また同時に、やりがいも感じました。今後もこの取り組みを継続していきたいです。
- 私だけではなく周りのみんなが楽しんで取り組んでいたように思えます。みんな一生懸命黙々と書いている姿があったからです。また、絵葉書を書くことでいいなと思えたことがあります。それは、絵葉書に添える一言を考えることで、自分の夢や目標をもう一度見直すことができるということです。心を込めて書いた絵葉書に返信が来たときは本当に嬉しく、次の絵葉書が楽しみになります。

ネット社会の現代、そしてコロナ禍で人との関りが軽薄になりつつある今だからこそ、手書きで想いを伝えることは改めて大切だなと感じました。

地域に根付いた活動。姫ボラ（届けよう思いやり・絆）

都城市立姫城中学校

姫城中学校のボランティア活動である「姫ボラ」は、全校生徒が対象です。平成22年に学校の生徒会の活性化や生徒に思いやりや命の大切さ・奉仕の心を育てること、地域や障がい者との交流・理解を深めることを目的として始まり、今年で発足から11年目を迎えました。

福祉教育やインクルーシブ教育の充実を図る実践にも努力しています。総合的な学習の時間を使って福祉に関する理解を深めてきました。

また、毎年地域行事等地域の方から要請されるボランティアにその都度生徒が申し込んで活動しており、今ではその活動が地域に根付き、高齢者の増加した地域からは欠かせない期待される存在になってきています。

活動内容としては、今年で3回目ですが、1学期の終業の日の放課後、全校のトイレ（110基）を自分で希望して一人1基ずつ担当して磨きました

また、7月ごろからボランティアスタッフ（11名）を中心に都城市近隣の保育園や児童養護施設、障がい児施設（児童発達支援センター）に手作りフェイスガードやよだれかけを製作し、1、2年生が家庭科の授業で作った雑巾（計約200枚）をよだれかけと一緒に9月中旬に届けました。

さらに、2学期に医療従事者への感謝の気持ちを伝えるために生徒会が呼びかけ、全校上げて水色マスクを着用してエールを送る活動も取り組んでいます。特別支援の生徒もペン立てや刺し子のコースターなど製作して寄贈しました。

（参加した生徒等の声）

- ・ 私は初めてトイレ磨きのボランティアに参加しました。実際やってみるとやりがいを感じて心がスーッと綺麗になった感じがしました。
- ・ みんなで協力して取り組みことができました。トイレに黒カビや水垢がついていて大変でしたが楽しみながら掃除できました。
- ・ 自分の作った雑巾が誰かの役に立って、喜んでくれると思うとうれしいなと思いました。
- ・ フェイスマスクを友達と協力して作れました。コロナウイルスから少しでも守れたらいいです。この製作に誇りが持てました。
- ・ 幼児のいる施設では雑巾が大変喜ばれました。コロナでのフェイスマスクも重宝がられてよかったです。



ゴミ拾いは地域へのまなざし。小人数での地域清掃

都城聖ドミニコ学園高等学校

都城聖ドミニコ学園では、地域の河川敷等の公共の場所を、利用者が綺麗な状態で気持ち良く利用してもらうため、また、ゴミの現状を調べるため、清掃活動を行いました。

活動には、ボランティア部の3年生が参加し、沖水川河川敷、神柱公園、早水公園、とその周辺で、夏休み期間（4日間）の午前8時から午前10時にゴミ拾いを行いました。

活動をふりかえると、河川敷では、花火、タバコの吸い殻が多くあり、他にもお菓子の袋やガラスの破片が地面に埋まっていたりしました。

公園では、空き缶やペットボトルのゴミが多く、茂みをかき分けると飴の袋やビニール袋などが落ちていました。自販機に設置してあるゴミ箱もいっぱいであふれていました。

（参加した生徒の声）

- 始める前にも何回か行っていた場所で、ゴミ拾いを行うまではあまり気にならなかったが、今回意識してゴミ拾いを行う事で、自分たちの知らない内に自然がゴミで汚れていることに気づきとても衝撃を受けました。拾っていく中で、どうしてゴミを捨ててしまうのか、どうしたら地域が綺麗になっていくかを考えるきっかけとなりました。
- 清掃していた時におじいさんたちから「ありがとう」と声をかけてもらいました。このように誰かが必ず見ていてくれることがわかり、嬉しく思いました。またしたいな！と思いました。



気持ちに寄り添うメッセージ

門川中学校

令和2年度の生徒総会で、生徒会の年間目標を「地域に貢献できる学校にしよう。」に決定しました。そして、地域に出かけるボランティア活動を予定していましたが、コロナ禍で活動できなくなってしまいました。活動を模索していたところ、ボランティアクラブ発足を手伝っていただいた門川町社会福祉協議会からアドバイスをいただき、親族にも会えない町内高齢者施設の利用者の方々を元気づけるために、メッセージ作成に取り組みました。

活動内容としては、町内高齢者施設の方々へのメッセージを行うこととして、門川中学校全校生徒485名が参加し、町内3つの高齢者施設にお渡ししました。

時期としても、敬老の日に間に合うように9月にスタートし、本校美術同好会と生徒会で6種類のイラスト原画を準備し、色づけを全校生徒で行いました。イラスト横にメッセージを添えて、392枚を作成し、9月17日(木)に高齢者施設に生徒会役員が持っていき、贈呈しました。

(参加した生徒の声)

- メッセージ作成をして高齢者の方々が少しでも元気になればいいなと思いました。私も祖父母に会えなくて悲しいですが、早くコロナウイルスが終息してみんなが笑顔で過ごせるようになってほしいです。
- 私だったら家族と会えないのはとてもつらいです。メッセージで思いを伝えることができよかったです。元気になってくれるとうれしいです。

(施設代表の方から)

- 18名のほとんどが認知症ですが、絵が描いてあるのをとても喜んでいました。ありがとうございました。

